

「 」

第15組 照明寺 和田 恭子

「年を取ったら、何もいいことないな。」

「だしかんわ。」

夕方の愛犬の散歩中いつも出会う方の言葉、85歳を過ぎたその方は、元気に自転車を乗り回してみえる。

「いやいや、こんな風に自転車がこげるなんて幸せなことじゃない。」

と答えると

「あんたはまだ若いからいいわ。」

と。確かに年を重ねてくると、今まで考えなくても出来ていたことができにくくなっていく。他の人と比べて今の自分の状態をみて、まだましかと安心したり、同年代で元気に活躍している人を見ると、うらやましく思い、自分に悲観する。

できないこと、できにくくなったことを悔やむより、できること、まだ大丈夫だなということを感じてみると、いっぱいあるのじゃないでしょうか。

ショボショボしているけれどまだ見える目、転びやすくなり、うまく使えにくくなっているけれどまだ動ける手足、中々、思うように言葉がでなくなったけれどまだ考えてくれる頭、美しいものが美しいと感じられること、食事が美味しくいただけること、行きたい所へゆっくりでも行けること、スーハー、スーハーと考えなくても息ができること、私の身体全部が、生きようとしています。

「人と比べる必要のない、あなただけの人生を生きてください。」

と言いつけて下さった、先に往かれた方の言葉が、いつも私を前へ前へとおしだしてくれています。